

愛知県特定鳥獣保護管理検討会（平成28年度第1回） 議事録

日時：平成28年8月23日(火)午後2時～

場所：愛知県自治センター4階 第2会議室

(1) 次期第二種特定鳥獣管理計画について（カモシカ、イノシシ、ニホンザル、ニホンジカ）

- ・ 現在の第二種特定鳥獣管理計画の達成状況について
- ・ 次期第二種特定鳥獣管理計画の管理目標について
事務局より説明

(委員)

資料1について、個別に達成状況を評価し課題を出しているが、特定計画は策定している4獣が関連し進めていくのが基本と思う。関連性が評価できておらず、適切な形かどうか疑問。

(委員/座長)

計画自体が個別であり、次期管理計画の検討も個別である。個別の評価をしつつ、各獣種問わず共通的な課題もあるため、全体的な総括も必要ではないか。

(委員)

過去に被害防止等、目標・目的を持って計画を作った。それに対し、今どうなったかの評価が最も重要。その上で何がなされ、何が足りなかったのかの検討が必要。

現在のやり方だと計画を評価したことになるのか疑問。

(委員)

同じく、基本的な目標に対する評価がない。今回出された内容は、それなりに前進とは思いますが、これは評価の材料である。達成・未達成の要因や問題がどこにあるのかを整理する必要がある。

イノシシでは、捕獲目標に対する結果は書かれているが、その目的から見た結果はどうか、目標の立て方自体がどうだったかという評価・検討がない。最初に立てた目標を5年間ずっと維持しているのは問題と感じる。

他にもニホンジカでは、捕獲圧の調整として手法は示されているが、その結果どうだったかが示されていない。評価すべき点はそこである。

(委員)

図式化して整理するなど、関連性を把握して評価や課題の検討をしないと、望む目標には到達しない。

(委員)

農林業被害が減少していないことや捕獲目標に達していないことは計画が甘かったのではないか。被害を受けると農林業従事者の意欲がなくなってしまう。獣害対策に取り組むことも大切ではあるが、根本的には頭数を適切に減らしてほしい。

(委員/座長)

数値目標が誤っていた、農村山村は劇的に状況が変化し、それに見合った目標が5年前にはできていなかったとはっきり総括してしまったほうがいいかもしれない。

次期計画でははっきり数値目標が出されているので、5年後にも総括がまた必要となる。

(委員)

イノシシとシカはかなり増えている。何もしていない訳ではなく努力の結果であるが、もっと減らそうと思うとかなり捕まえないと追いつかない。今のやり方で可能だろうか。もう少し別の方策を考えないと難しいと思う。

(委員)

シカとイノシシについては捕獲の担い手をどうするかも決定的な問題。猟友会も人が減り、かなり目一杯で動いている。特に問題なのが銃の後継者がどんどん減っている。

わなは自衛目的もあり愛知県でも全国的にも増えていると思う。しかし、捕れるような指導や止め差しに、猟友会の力が必要。担い手育成は本気で考えなければならない。

(委員)

銃の許可者が減っている。高齢化もあるが、所持許可の難しさが原因の一つ。国も公安委員会が検討しているが、現場では銃の使用許可は簡単に下りる状況ではない。

(委員)

都市部に相当数の免許者がいると思うが、動員できる可能性はあるか。今までにない発想で体制づくりを考えないと無理。2014年の法改正は、そういうことを見越し、反発もあったが、事業者による捕獲に道を開いた。ただそれは仕事なのでお金がかかる。

そういう手法も含め、今までの枠を超えないと捕獲数を伸ばすのは無理。現状は切迫感が感じられない。

(委員)

市町村を超えた広域的な観点を入れるとまた違う面が出てくると思う。

また、出口対策について、捕獲したもののジビエとしての活用など何か出すとよい。

(委員/座長)

ここへ持っていけば狩猟獣を処理してくれるという施設等の体制を県として検討する、というぐらいはっきり打ち出すべきである。

(委員)

市町村ではできないことをやるのが県だと期待したい。

(委員/座長)

以前も指摘があったが、市町村の出す数値を積み重ねて県の目標にしているのがまずいのではないか。県において、例えば一万頭捕獲すると目標を立て、その体制作りの検討や、市町村への指導力の発揮をすべきと思う。

目標を県として決意を込めて策定するとともに、近年は予算もあると聞いているので、達成に向けた資源を確保していただきたい。

(委員)

次期計画について、全種において、管理目標に「地域個体群の長期にわたる安定的な維持を図りながら～」と記述されている。理念的な目標を掲げるのもよいが、5年間で具体的に何を達成しようとしているのか、それが大事なのに出ていない。

例えばカモシカであれば、地元は不満かもしれないが現状程度の生息密度と被害状況を維持するという目標の立て方もある。

県として考えるべきは捕獲上限や推定個体数・分布域の水準であり、あとは個別の被害対象により基本的に捕獲を許してもいいのではないか。

(委員)

カモシカの捕獲目標数の根拠は何か？

(委員/座長)

推定生息数 1,800 頭を、計画期間中維持するというもの。これが多いか少ないかについては考えなければならない。

(委員)

カモシカは、もともと個体数の水準を維持するという話ではなかったと思う。

(委員/座長)

一定の生息数維持という目標と、分布域をどうするかとの2つの目標がある。

(委員)

分布域の拡大を止めるのであれば、効率悪くても必死に捕る必要がある。

(委員/座長)

目標値の根拠は何か。周辺地域はゼロにするのか。1800 頭という数値はどうか。1200 頭でいいという議論になればより多く捕獲しなければならない。

(委員)

例年捕っているのは 30 頭。

(委員/座長)

県では、前回の目標が低かったので、今回はもう少し出そうとしている。

(委員)

カモシカは数値を見るとなんとなくうまくいっているような数値が出ているが、もう少し具体的に、このように被害の拡散を抑え込むなどを示せば次期計画に関してはいいと思う。

(委員)

分布拡大を阻止するという目標を掲げるのであれば、ゾーンを区切ってそこでは無制限に捕るといような発想になってくると思う。特定鳥獣のガイドラインでもそこまでの事態は想定されておらず、他の例もないため、ロジックとデータと体制を詰めて提起する必要がある。

(事務局)

生息数維持ということで、仮に 170 頭を提示したが、これを目標とするかは議論がある。

まず被害を抑えなければならない中で、森林被害については面積的にかなり減っている。捕獲頭数はここ数年 30 数頭だが、被害に関してはこのままでよいかというのも事務局の中で議論がある。

特別天然記念物で文化財保護法に基づいて守られているものだが、現状でよいか。現在も生息が広がっているが、その中で被害を抑えていくには、森林組合における今後の植林の計画など、各団体で対策等も考える必要がある。

その辺りもご意見を伺いながら目標数値等を考えて行きたい。

(委員)

目標は数値よりも考え方だと思う。分布拡大についてどうするかという話であり、捕獲により分布拡大を止めたいとなると、それが必要だと説明しきらないといけない。

(委員/座長)

山間部では少数を減らしてもあまり問題はないかもしれないが、都市部の人達の意識では、カモシカをやたらに殺していいのかという議論が出てくる。県として防衛ゾーンでは分布を圧倒的に減らすという論理を書いているか、少し心配に感じる。

(委員)

文化財として、文化庁等とも議論を重ねないと、その理屈で簡単に現状変更が認めるとは思わないが、どこかがやり取りをしないと始まらない。

(事務局)

旧設楽郡だと年間 36 頭ぐらいたが周辺の豊田市や新城市では結構数が増えていて、こちらでは近年捕っていないので、次期計画として捕獲する対策も示すことを考えている。

(委員/座長)

それは必要だろう。豊田市でもよく見かけるようになった。

(委員)

カモシカは捕獲地を決め、間違いなく被害を起こしている個体のみを捕獲し、きちんと被害が軽減されているので、それはそれで評価を出す必要がある。

(委員/座長)

植林の数が減ったため被害が減っているとの話が森林組合からある。植林をしてもカモシカの数が多いと大きな被害が出てしまう。被害が出ていなくても数は一定程度に抑えてほしいという意見が前回出ていた。被害が少ないのは植林自体が減少しているからか植林意欲が減少しているからか分からないので、どういう評価をするかは難しい。

一定程度被害が出ている地域を中心に 30~60 頭ほど捕獲し、被害が減ったからプラス評価するというのも可能かもしれないが、植林が少ないから被害が少ないという状況もあるので、より注意が必要だと総括しなければならない。

(委員)

イノシシ、シカ、サルについて、特定計画と実施計画レベルで特措法に基づく対策と、調整、協調をどうするか具体的にしていけないといけない。

市町村で捕獲目標を持っているのであれば、調整をして捕獲数が全体の地域の捕獲数の積み上げで特定計画の目標に達するかどうかという検討をする必要がある。

(事務局)

イノシシは生息数が分からないというのが大きな要因の一つ。県レベルでも生息する手

法が見い出せない中で被害をいかに抑えて行くかというのが現実問題となった。

前回の計画を踏まえて数が分からない中で何をやっていくかというのは、5年に1回大きな調査をして計画作りのための基礎データを取るが、それ以外で指標となるようなモニタリングができないかと考えている。狩猟者から取る目撃効率（WPUE）が年度ごとのモニタリングの指標としてどの程度有効か分からない部分はある。その辺り、ご専門の先生方がかか。4,000件くらいのデータがあると考えている。

(委員)

全体の大きな動向には使えるだろう。ただ、WPUEの値が不自然なほど安定している。

(事務局)

意外に捕った後のWPUEは下がっていたり、ある程度被害と似たような相関があるようなので今後もそうなるのか。

(委員)

シカは数と密度が問題となるが、イノシシはそれが分からないから農業被害の状況でいいと思う。ただ、単純に被害額ではなく、兵庫県で行っている大字か字ぐらいの単位で農業者にヒアリングして、全体と地域の動向を見る方法を参考とするとよい。

(事務局)

年度ごとの捕獲目標により捕獲を行った結果、翌年に被害が抑えられているかは明確にわからないため、計画期間をどのように推進していくかは迷うところである。

(委員)

イノシシについては、捕獲目標はあるが、集落周辺において成獣をできるだけ捕獲するというのを徹底すればよい。

被害としては、山林も少しはあるが、ほぼ農作物だから、3年ぐらいで集落ごとに被害が減っているかどうか、減ったところではどれくらい捕れて、増えたところではどうかという見方が現実的と感じる。捕獲数の計算をあまりやってもしょうがない。

(事務局)

シカだと数もある程度は必要と思われる。

(委員)

複数の方法で想定した数であるため、合っているかは検証が必要。想定数を捕獲しても変わらなければ、捕獲すべき数が想定より多いと考えて対応する必要がある。

なお、ニホンザルのガイドラインが今年度中に改訂されるが、群れ単位の管理という形になるため、捕獲個体数を目標とするのではなく、群れを識別し、加害レベルを5ランクぐらいで判定し、群れで管理する考え方にしなければならない。

(委員)

市町村や集落など、地域で体制を作り、検討しながら捕獲を行っていく、という進め方にしないと、これ以上効果は上がらないのではないかと。

(委員)

以前より、地域ごとに顔が見える体制を作っていかなければならないと言われている。

(委員/座長)

ニホンザルの県内の推定生息数が3,000頭とのことだが、群としては何群あるのか把握しているか。40群ぐらいか。

(委員)

はっきりと覚えていない。データも古いので信頼性はないが、愛知県は山が深いため、今から群れの数进行调查しても、把握できるか分からない。

(委員/座長)

20年ぐらい前に大掛かりな調査があったと思うが、その頃は30群ぐらいだった。

(委員)

それが基になっていると思うが、20~30年も経つと随分変わる。

(委員/座長)

1群は30~60頭か。

(委員)

普通はそうだが、大きい群れは100頭にもなる。

(委員)

ニホンザルの分布で、群れが出る範囲というのは分かるか。それが重要。

また、図の中で渥美半島の付け根のところにまとまっているがこれは何なのか。また、湾の北側にまとまった出現情報があるが、計画区域から外れており、もし群れだとすると放っておいていいか。

(事務局)

蒲郡や幸田は、アンケートではぐれザルという回答があるので、群れではないと思う。

(事務局)

群れの管理に、どのような知見があるか調べたいので、研究されている方やデータがあれば教えていただきたい。

(委員)

特にないのでは。

(事務局)

20年前からの推定も難しいような状況か。

(委員)

難しいと思う。以前に調べられたデータもあるが、だいぶ時間が経っている。

現在では、生息域がだいぶ南下し広がっている。

(事務局)

アンケートで、これは群れだとは分からないか。

(委員)

群れかどうかは分かる。

(事務局)

人との関わりあいというのは一部しか分からない。

(委員)

群れが出そうな集落で、出没しそうな時期にアンケートを行い、集まったデータを図面に落とすと、分布やそれへの対策のイメージが湧くのではないか。

(委員)

以前、岡崎市でそのようなことが行われていた。ただ、やはり自分達だけでは難しいと言っていた。季節などいろいろな要素があり、慣れた人が見ないと分からないが、かなりのことは分かる。

(委員/座長)

そのようなアンケートを県が実施することは困難と思う。猟友会員や農協、市町村関係者や個別の農家など、地域ごとにモニタリングできる人を置かないと難しい。

(事務局)

大掛かりな調査で費用も要すると思われ、今回の計画に盛り込むのは難しいと感じる。

費用面もあるため、次期計画に向けてということになるかもしれないが、群れ単位の管理を検討するために実施を検討したい。

(委員)

4獣の管理目標の検討としているが、被害状況や生息頭数の推移と管理目標との間の整合性や、どう目標を達成していくかについて不明確なので改善してほしい。従来計画の目標の議論も踏まえ改定してもらいたい。

委員から指摘のあった人材育成の戦略や特措法のデータとの関連性等も踏まえて作成していただきたい。

(2) その他

今後のスケジュールについて確認